

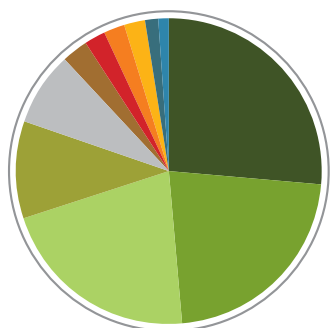


フェルダ・グローバル・ベンチャーズ (FGV) は、世界最大の粗パーム油生産者であり、マレーシア第2位のパーム油精製業者である。FGVは、インドネシアとマレーシアでの農園運営とビジネスにおいて、強制労働、森林破壊、泥炭地開発に関係している。

企業プロフィールと持続可能性への取組み

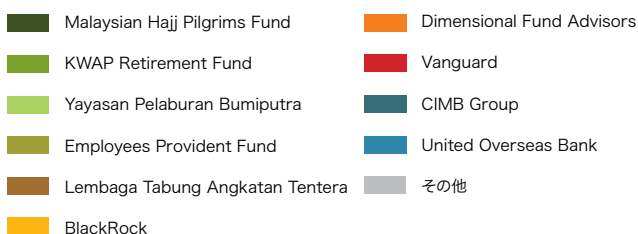
最高経営責任者	Dato' Zakaria Arshad	森林リスク商品	パーム油、ゴム
親会社	Federal Land Development Authority (Felda) Group	サプライチェーンとの関連	農園、加工、取引、製造、卸売
時価総額	17億 USD ⁶¹	影響を受ける熱帯林	インドネシア、マレーシア
年間収入	FY2015: 39億 USD ⁶²	関連子会社	FGV Plantations (Malaysia) Sdn Bhd; PT Citra Niaga Perkasa (PT CNP), PT Temila Agro Abadi (PT TAA), PT Synergy Oil Nusantara (PT SON), Felda Wilayah Raja Alias Unit, Pasoh Complex, Serting Hilir Complex, and Palong Timur Complex
本部	インドネシア	既知のビジネス関係	合併事業パートナー: Procter & Gamble (Felda Procter & Gamble)
用地面積 (HA)	合計: 784,710 ha		
NDPE方針	無し		他の買い手: Cargill, Wilmar, Nestlé, Golden Agri-Resources, Musim Mas
第三者機関による検証	無し RSPOメンバーであるが、2016年に全ての工場のRSPO認証を撤回した。		
追跡可能性	弱い 工場への追跡可能性のSPOTT スコア: 0% ⁶³		
透明性	部分的 SPOTT スコア: ⁶⁴ RSPOへの報告: 26.7% 農園用地と地図: 68.8%		

投融資機関



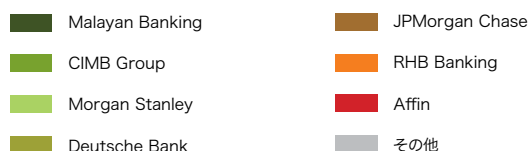
フェルダグループにおける 債券と株式所有

3.51億米ドル
(2017年5月、森林リスク部門に調整、
機関投資家のみ)*



フェルダグループへの 融資および引受

29.37億米ドル
(2010-2016、森林リスク部門に調整)



出所: 'EXPLORE THE DATA' | forestsandfinance.org
* グループ会社レベルでの資金提供で森林リスク部門に調整。要約ページの方法論を参照。

THE WALL STREET JOURNAL.

WORLD | ASIA | ASIA NEWS

Palm-Oil Migrant Workers Tell of Abuses on Malaysian Plantations

Global palm-oil industry contributes to human trafficking, rights advocates say



FGVの農園での労働虐待に関する報道
写真: WALL STREET JOURNAL, 26 JULY 2015

ESGの実績

人権

- 2015年7月、ウォール・ストリート・ジャーナル([WSJ](#))は、FGVの農園での人身売買、強制労働、労働者賃金の控除などを暴露した「パーム油移動労働者、マレーシア農園での労働虐待を語る」という記事を発表した。
- WSJの記事に応じて、RSPOは、FGVパーム油農園の遵守状況の監査を認定サービス・インターナショナル([Accreditation Services International: ASI](#))に委託した。ASIは、国際労働機関(ILO)が強制労働を示す指標としている事項を同農園で見つけた。それらは、最低賃金が支払われていない、労働者が雇用条件を理解していない、労働者の契約が彼らが理解できない言語で書かれている、小規模農家は「恒常的な負債」を報告している、労働者のパスポートと身元証明書が会社に保持されている等である。
- FGVに委託された2回目の労働監査は、2016年1月にワイルド・アジアにより行われ、労働に高い報酬を支払う労働者、労働者に虚偽の労働条件を告げる仕事の斡旋人、借金返済には不十分な賃金しか稼げずパスポートを取り上げられたままの労働者など、強制労働のリスクが継続していることが明らかになった。労働者は、苦情を報告することをためらい、その報酬は最低賃金を下回り、賃金明細を理解しておらず、結社の自由を知らされていないことが報告されている。劣悪な生活状態も監査人によって明らかにされた([Wild Asia, 2016](#))。
- 2016年5月、FGVはマレーシア全域の58の複合施設から経営上の重要な懸念事項として社会基準を引用してRSPO証明書を撤回した([FELDA, 2016](#))。
- 今日まで、FGVの対応は自身の事業での現代の奴隷制度の進行中のリスクに対処するには不十分であった([RAN et al. 2015](#))。

気候と生物多様性

- 2014年-2015年の間、FGVの子会社、チトラ・ニアガ・プルカサ社(Citra Niaga Perkasa : CNP社)とテミラ・アグロ:アバディ社(Temila Agro Abadi : TAA社)は680ヘクタールのHCV泥炭地を一扫した([Chain Reaction Research \(CRR\), 2016](#))。FGVが2016年8月に新しい持続可能性方針を導入して以来、TAA社は864ヘクタールの主に泥炭林を一扫した([CRR, 2017](#))。

- パタムにあるFGVの合併会社、シナジー・オイル・ヌサンタラ社(Synergy Oil Nusantara : SON社)はデュタ・パルマ・ヌサンタラ(Duta Palma Nusantara)からパーム油を購入しているが、それは森林破壊と泥炭地開発のために2013年にRSPO会員ではなくなっている([RSPO, 2013](#))。
- フェルダ・グループは、ラジャワリ(Rajawali)グループの論争的となっているイーグル・ハイ・プランテーションズ社(BWPT社)の株式の37%を取得した([Thoumi, 2017](#))。
- BWPT社には公表されたNDPEがなく、その操業のいずれでもRSPO認証が確保されていない([CRR, 2016a](#))。
- BWPT社は、2010年から2014年に13,000ヘクタールの熱帯林と、2013年から2015年の西バブア州の1,000ヘクタールのHCS林の皆伐に関与している([Greenomics, 2015](#); [CRR, 2014](#); [Guardian, 2016](#))。
- フェルダはBWPT社の425,000ヘクタールの農園用地を取得する予定であるが、そのうち36%のみの植栽が行われており([Bloomberg, 2015](#))、森林破壊のリスクが高まっている([CRR, 2014](#))。
- ラジャワリ・グループの事業は、広範な森林と泥炭地の破壊、違法な火入れ、児童労働の使用、強制労働に関係している([New York Times, 2016](#))。

ガバナンス

- FGVの全農園用地の22%の土地が紛争中である([CRR, 2016](#))。
- マレーシア政府関係機関は、FGV株式の75%を所有しており、1%未満の株式を保有する他の機関投資家を、重大な少数株主リスクにさらしている。
- FGVの総資本(株式資本と負債)の44%が関係者から融資を受けているため、利益相反のリスクが増大する([CRR, 2016](#))。
- FGVの顧客の多くがウィルマーやGAR等のようにNDPE方針を持っており、BWPTとの取引は、これらの顧客にとって、そして結果としてFGVの投資家に対して高いリスクをもたらす([CRR, 2016](#))。

注: 全ての参考文献のリストは、レポート「[投資家には責任がある](#)」にあります。